

1 令和6年度の成果と課題

- ・習熟度別学習を実施し、個人の習熟に合ったクラスで学習をしたり、「ドリルパーク」で学習の定着を図ったりした。しかし、基礎の正答率の平均が4学年は目標値を上回ったが、5・6学年は下回った。今年度も、全学年3展開で授業を進めているので、さらに実態に合わせた指導を行い基礎の定着を図る。
- ・観点別にみると、「思考・判断・表現」の正答率が、学年が上がるにつれて目標値よりも下がっていることが分かる。児童が自分の考えをもち、協働して学びを深めていく授業を工夫する。
- ・既習内容の定着が難しく、算数に苦手意識をもつ児童がいる。復習を繰り返し行いながら、「できた」「分かった」と実感できる授業を行う必要がある。また、診断テストを参考にして補習を保護者、児童によびかけ希望する児童に行う。

2 今年度の調査結果の分析

「第4学年」

基礎、活用ともに正答率の平均が目標値を上回った。観点別では、目標値を上回っているが、「データ活用」の領域や、記述式の解答では、目標値より少し低くなっている。

「第5学年」

活用は正答率の平均が目標値を上回ったが、基礎は下回った。観点別にみると、「知識・技能」が目標値より下回り、「数と計算」「図形」領域での正答率が低くなっている。

「第6学年」

基礎・活用ともに正答率の平均が目標値を下回った。観点別にみでは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、どちらも目標値を下回る結果がみられた。「データ活用」の領域や、記述式の解答では、目標値より10点以上低くなっている。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 学習への意欲を高める

低：身近な生活の場面での学習内容を設定したり、ICTを活用したりすることで、興味・関心をもたせ、考えやすくさせる。

中・高：ペアでの交流や全体での話し合いの時間をつくり、1つの答えの求め方だけでなく、様々な考えを出させることで、自ら考えて解く楽しさを実感させる。

2 数の仕組みや概念の理解を高める

低：ブロックなどの具体物や時計を実際に操作する活動を多く取り入れ、数の概念を身に付けられるようにする。

中：小数や分数などは、数直線や図などで視覚化し、具体的なイメージをもたせ、考えやすくさせる。

高：既習事項の復習を繰り返し行いながら、一般化することで、整数だけでなく小数・分数の場合にも計算の仕組みや計算のきまりが活用できることを理解させる。

3 四則計算など基礎・基本の定着を図る

低：ドリルやプリント・「ドリルパーク」などで、児童がつまずきやすい繰り上がり・繰り下がりのある計算・かけ算九九を繰り返し練習し、定着を図る。かけ算の学習後に、九九テストを一人ずつ行い、九九を定着させる。

中：授業の終末や単元の終わりに、「ドリルパーク」のドリルに取り組ませ、四則計算の基礎・基本の定着を図る。

高：ドリルやプリント・「ドリルパーク」で、苦手としているわり算や分数の計算・割合の問題に繰り返し取り組ませ、定着を図る。